“失業と健康”研究会

News Letter

第21号　　2007年10月10日発行

第19回研究会レポート

健康保持のための新施策が実施されようとしている。今回、①健診をめぐって諸問題　②特定健診・特定保健指導を切る、の２題を討議した。

健診日は「健康優先の日」

仕事と健康の両立のために

日本予防医学協会理事長の高田和美氏が、職場健診をめぐる諸問題について長年の産業医実務経験で得たことを事業者、受診者、健診スタッフ、産業医別にまとめた。

事業者は従業員の仕事と健康を図る責任があり、健診日は「健康優先の日」と心がけることが大切である。職場の雰囲気はともすれば仕事優先で、受診を軽視する傾向にある。

受診者は「健診は自分のため」であり、健康な生き方の選択の日と心得る。問診では職場、家庭、地域での生活情報を提供する。個人情報保護法を盾に提供を拒むことは許されない。健診要員との問診では、自分が話したいこと、尋ねたいこと、自慢したいことをメモしておいて話したらよい。日頃の健康記録があれば当日持参する。受診結果を自己評価するようにしむける。職場には大型鏡を備えて姿勢や表情などを自己観察し、隣の同僚と比較対話することも大切な行動である。

健診スタッフは、当日受診者が誕生日である場合には「おめでとう」と一言声をかける。対話のとき、カルテ用語、あいまいな言葉、職場での用語を避ける。たとえば不能、不可、入眠、満腹、治癒、遅延などがあり、曖昧な用語に塩分が大事、栄養が大切、適度な運動などがある。

受診者の自慢話は笑顔で聴き、長所を褒め、ついでに欠点を指摘する。また病気の経験をプラス評価する。失敗談を歓迎する。難しい質問には、図書の貸し出しを考える。若い健診スタッフは、受診者から教わるつもりで傾聴する。

産業医は診察時に必ず手を診る。手の表情で仕事や保護手袋の使用、スポーツ、趣味などを知ることができる。健診結果に有所見があればブレーキを発見できたと考える。酒量は尋ねない。むしろどんな時、どんな相手と、どんな話をするかなどを聴く。一人で食事することを避けさせる。一緒に食事するのは同僚とのコミュニケーションを図り、偏食を避けるためである。職場では上司に健康状態を話し易い雰囲気つくりをし、隠すようなことをさせない。診断書を書く場合には、作業内容、作業時間などを重視した「産業医意見書」にする。そこには病名を書かない。

このようなことを長年の経験に基づいて話した。質問では口腔内疾病が健保で高コストになっているので、健診に口腔内検診を取り入れるべきであることが提言された。　(mt)

特定健診のあいまいさ

既存の健診システムとの整合性がない！

厚労省が2008年4月から実施しようとしている特定健診に関し、「特定健診・特定保健指導を切る」と題して星子美智子氏が述べた。特定健診は近年ブーム化した感がある「メタボリック シンドローム」に偏った健診内容である。この語は成人病、生活習慣病と同様の総称で、両者の置き換えである。導入の背景、仕組み、従来型との比較、問題点についてまとめた。

腹囲にしても男女差が諸国と異なり、測定部位にも異論がある。労働の点からみると職種によっては腹囲が大きくないと重量物を持てない、やせていると腰痛症になる、などと実際面との乖離がある。健診項目がメタボリックに固執している。

特定健診後の支援が続くが、受診者に経済的負担がある。2800億円という経済市場が創出されると試算されている。それに対する健診企業の利潤追求の結果、第2のコムスンにならないのか。

健康保持ということは、対象者の健康保持への意欲が第一である。それを如何にかき立てるか。健康人にとって、長期の介入はともすれば「**おせっかい**」という声が出るであろう。その費用は誰が負担するのか。現実的でないプランである。

さらに健診項目に既存の健診システムとの整合性が全く行われていない。生涯健康という視点で見ると誕生して小学生になるまで地域保健による乳児健診など、入学後は学校健診、就職して労働安全衛生法に基づく職場健診、そして定年後は再び地域保健（健康診査）である。そこに40歳から74歳までを対象としたメタボリックの特定健診をするというのである。健診項目に重複が多い。職場健診と健康診査との整合性を図るべきである。

08年4月から実施することになっているが、多くの問題点をかかえている。したがって次回では再度とり上げて、既存の健診システムとの整合性をいかに図るべきか、生涯健康という視点から討論することになった。

(mt)

お知らせ

◆**第20回研究会** *（次回）* は、**'08年3月1日** *（土曜日）* 14:00—17:00です。

＊**予定プログラム**は

〔1〕続特定健診：既存の健診システムとの整合性　星子美智子
（久留米大学医学部環境医学）

〔2〕その他

＊**会場**：久留米大学医学部・基礎2号館1Fセミナー室です。

◆**08年の開催予定**：*3月1日、6月7日、10月4日（各第1土曜日）*

◆本誌 "News Letter" を入用の方は、お知らせ下さい。

世話人：的場恒孝（代表）・高田和美・酒井 淳・石竹達也・山岡春夫・児玉英嗣・織田 進

[事務局]　（〒830-0011）福岡県久留米市旭町67 久留米大学医学部環境医学教室内

“失業と健康”研究会

Fax: 0942(31)4370　Tel: 0942(31)7552　E-mail: kankyo@med.kurume-u.ac.jp